

熊本県の北西部に位置する荒尾市。西日本最大級ともい

われる遊園地グリーンランドやラムサール条約

登録湿地の荒尾干潟

など、観光資源や自然にも恵まれたまち

だ。かつては三井三池炭鉱を有して大い

に栄えたが、1997（平成9）年の炭鉱閉

山に伴って人口も徐々に減少。長年にわたって市民

に愛された荒尾競馬場も2012年に閉鎖された。

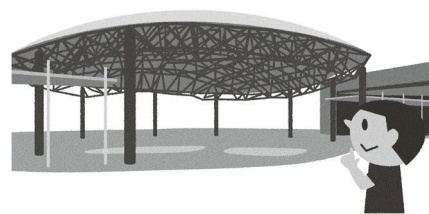
そして現在、競馬場跡地を含む約35ヘクタールもの土地で、新しいまちづくりが進められている。

○健康で幸せに暮らせるまちに

じつは、このまちを紹介するのは、2021年12月に続いて2回目になる。前回は競馬場のスタンドなどとも残り、まだほとんどが更地であった。約4年ぶりに訪れたまちにはカラフルな集合住宅が並び、巨大スーパーマーケットも開業するなど、大きく

まちづくりからにぎわいづくりまで生まれ変わるまちをパッケージでサポート

南新地地区土地区画整理事業と
荒尾駅周辺活性化のパッケージ支援
2012年●平成24年～



阿部民子 text by Tamiko Abe

Illustration by Shigeyuki Sakata

変貌していたのには驚いた。

「まちの愛称は『あらお海陽スマートタウン』、コンセプトは『有明海の夕陽が照らすウエルネスタウンあらお』です。誰もが心身ともに健康で幸せに暮らし、何度でも来なくなるまちになるよう、有明海の自然環境を活かした街並み形成や公園を整備しながら、多彩な都市機能を誘導することで、ワンランク上のライフスタイルを実現できるまちを目指しています」と話すのは、荒尾市都市計画課長の畑田康彦さんだ。

広大な土地に新たなまちをつくる、というかつて経験のない大事業を始めるにあたって、市が相談をも

散策できる遊歩道や公園、ビジネスホテルも続々完成予定と、新たなまちづくりは着実に歩みを進めている。

○駅前のにぎわいを取り戻す

競馬場跡地開発とともに公民連携で進めているのが、ＪＲ荒尾駅前の活性化だ。以前は商店街としてにぎ



上／競馬場跡地には商業施設や住宅などが新たに建設され始めている。

左／荒尾駅周辺で行われた社会実験の様子。

わっていたが、現在は乗降客が減り、空き店舗も目立つ。そのような場所をDIYリノベーションや新たな活動の創出により、居心地のよい空間に変え、スマートタウンと駅前を回遊する人の流れを創出。エリア全体の価値を高めることを目指している。

まずはどんな駅前が望まれているのかを探るため、市とURは、近隣店主や地域活動組織らと「えきまち研究会」を結成。駅周辺まちづくりの方向性などを話し合った。URはそこで得たアイデアを試行する社会実験を提案。社会実験は市が主催、URが調査支援を行い、昨年11月は、車道を通行止めにして駅前に大きな広場を設置し、地元で活動する一般社団法人「のあそび」によるマルシェを開催。今年5～6月には駅前の歩道に椅子とテーブルを設置し、どちらも多くの人でにぎわった。

「実験の結果、『広場で遊ぶ』『飲食・休憩』する方も目立ち、『普段も椅子やテーブルを使いたい』『駅前で過ごす時間が増えた』などのご意見をいただき、今後の活動イメージや可能性が見えてきました。今後

ちかけたのがUR都市機構だった。両者は2016年にまちづくり基本協定を締結。URは新たなまちのコンセプトづくりから、土地区画整理事業や150名に及ぶ地権者の合意形成、基盤整備の先にあるまちづくりに至るまで、パッケージで市のまちづくりを支援している。

新たなまちの核といえるのが、保健・福祉・子育て支援の複合施設と、地域交流施設と位置付ける道の駅「ウエルネスあらお」だ。荒尾市産業振興課長の松尾謙一郎さんは「保健福祉子育て支援施設は来年4月、道の駅は6月のオープンを予定しています。ここでは各種行政手続きができるうえ、子供の遊び場や託児室、健診などを行える多目的ルーム、調理室などを設けます。両施設の間には、イベントなどが行える大屋根広場も建設。道の駅2階の展望台からは夕陽が沈む有明海や普賢岳が見渡せて、眺望も抜群です」と話す。

タウン内には、佐賀県鹿島市と熊本市をつなぐ高規格道路の有明海沿岸道路が通り、インターチェンジの新設も予定。さらには海を見ながら

の駅前のあり方を考えていくうえで参考になるデータを収集できました。また、実験で地元の方がやりたことを市が寄り添い実現したこと、今後もここで様々な活動が起こりそうな手ごたえを感じています」とUR荒尾都市再生事務所長の田中耕介は振り返る。

荒尾市での約10年に及ぶURのまちづくり支援に対し、「URさんのノウハウや知識、企画力と発想力があつたからこそ、ここまで進めてくれたと感謝しています」と畑田課長。「スマートタウンの土地区画整理事業は今年度で完結しますが、これからさまざまな相談事に柔軟に対応しながら荒尾市と共に地元関係者への協力を続け、信頼されるパートナーとして支援していきたい」とURの田中。

まだ見たことのない新しいまち、新しく再生される駅前。生まれ変わる荒尾市の未来に期待が集まる。

街に、ルネサンス



UR都市機構

〔企画制作〕新潮社